

「防災・減災 いざという時どうするのか」 シーズ2

イメージしてみよう！阪神淡路大震災と同じ「震度7」の地震が起きたら、どうなるだろう？

直後 → 数分後 → 数時間後 → 翌日 → 数日後 → 数週間後 → 数か月後

地震発生

今回は、この時の状況・対応を紹介します

学校にいるときに発生したら…

自宅にいるときに発生したら…

数十分後

避難場所
に避難

先生たちが、みなさんの安否確認・負傷者確認を行います。休み時間や部活動時も先生の指示によって避難します。不明者がいれば、校舎内に残っていないか、各教室やトイレにも探しに行きます。

* 避難場所とは？

数時間後

下校・引き渡し

年度当初に、保護者の方に提出していただいた「引き渡しカード」をもとに、引き渡しを行います。保護者と連絡がつかない場合は、学校待機となります。

* 避難所とは？



避難場所：命を守るために緊急に避難する場所

避難所：災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした施設（社中も指定されています）

数日後

震度7の地震が起きると、どのような状況になるだろう？

【ライフライン】

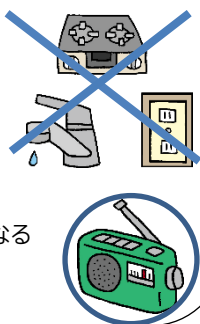
上下水道とガス、電気が停止する

【交通網】

道路で渋滞が発生、鉄道は止まる

【情報通信】

電話やインターネットがつながらなくなる
ラジオは使用可



2・3年生は、昨年校長先生が集会でされたお話を覚えていますか？

当時、現地の災害対策本部で被災者支援をされていた校長先生。

「五感」の話が忘れられないので紹介します。

「地下鉄の線路を1時間半かけて歩き担当する場所に向かった。テレビで見た悲惨な光景が右も左も後ろも360度。24時間消防や救急車やパトカーのサイレンの音、ヘリコプターの音がしていた。ものが焦げた臭さ、土埃舞う臭いも続いた。

支給される食事は、朝食はエンゼルパイ、昼と夜は冷えたお弁当。何日間も同じ食事だった。コンパネという板の上に寝袋を敷いて寝ていた。凍死はしないものの背中が痛く、朝方は顔が冷たく、その肌感覚も覚えている。」



想像の仕方でも備えが変わります。

みなさんは、どんな想像をしましたか？



ライフラインの復旧まで	電気	水道	ガス
阪神淡路大震災（H7.1.17）	6日	90日	84日
熊本地震（H28.4.14）	5日	7日（約9割）	15日

私たちが生きていく上で欠かせない命綱ともいえる「水道・ガス・電気」それらが使えない世界を想像してみましょう。私も考えてみました。

【上下水道が止まると？】

トイレを流せない！（←これ、かなり大変です）、飲料水・調理用水が無くなる、歯みがきができない、お皿を洗えない、お風呂に入れない、洗濯ができない

【ガスが止まると？】

ガスコンロが使えない、ガス給湯器が使えない

【電気が止まると？】

暗闇でまわりが見えない、テレビがつかず情報が得られない、冷蔵庫が使えない、スマホの充電ができない、IHが使えない、電気給湯器が使えない、こたつやエアコンが使えない、炊飯器や電子レンジが使えない、ATMや電子マネーが使えない